

祖師先徳鑽仰大法会 『宗祖伝教大師一千二百年大遠忌』 ～ 本年六月四日 御祥当 ～



伝教大師

平成二十四年四月より十年間を期間として行われていた「祖師先徳鑽仰大法会」もいよいよ「宗祖伝教大師入寂一千二百年大遠忌」御祥当の年を迎えることとなりました。天台宗各教区におきましては、昨年一年をかけて総本山延暦寺にて伝教大師一千二百年大遠忌法要を奉修予定でしたが、新型コロナウイルスによる自粛のため、すべての行事が延期となり、群馬教区におきましては、十月二十八日に予定していた教区法要を本年七月六日に奉修すべく内容を調整しております。

本年六月四日に一千二百年の大遠忌を迎えるにあたり、伝教大師最澄さまのご生涯をお偲びし、その御業績を振り返りたいと思います。

伝教大師は天平神護二年（七六六年）または一説に神護景雲元年（七六七年）に近江国坂本（現在の滋賀県大津市坂本）にお生まれになりました。幼名は「広野」で、非常に秀才で勉学に励み、十三才の時に僧侶になる道を選び、近江国分寺行表法師の弟子となり名を「最澄」と改めました。

時は進み延暦四年（七八五年）奈良の東大寺にて僧侶になるために必要な二五〇の戒律を授かり正式な僧侶となりました。最澄は修行の地として、生まれ育った坂本にある比叡山を選び入山されました。延暦七年（七八八年）に、山上に小さな草庵を建て、「一

二ページに続く

新年あけましておめでとうございます。檀信徒皆様と輝かしき令和三年を迎えられることを喜び申し上げます。

昨年のふりかえりますれば、コ



群馬教区 檀信徒会連盟会長 神宮 直仁

年頭のごあいさつ

新年あけましておめでとうござい

います。麗しき平和を重ねていく新しい時代、令和三年の希望に輝く新春を迎え、檀信徒の皆様にはご清祥にてお過ごしのことと拝察慶賀申し上げます。

昨年は、世界中の人々が新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大なり小なり受け、自粛が余儀なくされたいい人に会えず、もどかしさを感じた方もいるでしょう。また、家族と一緒に過ごす時間が多くなり絆が深まった方もいるでしょう。人と人の繋がりが目に見える機会が多くなされたことと存じます。

そして、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、罹りされた方々に心よりお見舞い申し上げます。また、日々医療の最前線で患者さんの治療に尽力されている

ナ禍による諸事業の中止、縮小、外出の抑制等があり、会員皆様も不自由な生活を強いられた一年でありました。今年も、まだ先の見通せない一年となりそうですが、コロナに罹患しないよう十分に注意して生活されるようお願い申し上げます。

さて、本年六月四日は伝教大師最澄上人の没後一千二百年の祥当日であり、群馬教区でも比叡山延

医療従事者の皆様に、心から深く感謝を申し上げます。

さて、天台宗で展開しております十年に亘る祖師先徳鑽仰大法会も、愈々本年の宗祖大師様の千二百年大遠忌にむけて、宗祖大師様の遺徳を偲び報恩謝徳の心をこめて、宗徒檀信徒一丸となって進んでいくところではありましたが、日々変化する新型コロナウイルス感染症状況を踏まえ、実施期間が令和四年三月三十一日から令和五年三月三十一日まで一年間期間延長となりました。これにより、群馬教区では昨年十月に予定しておりました御本山比叡山延暦寺にての檀信徒結縁灌頂と伝教大師千二百年大遠忌「群馬教区法要」を、本年七月六日内容縮小の教区法要のみ、人員削減の僧侶のみにて奉修させて頂きます。檀信徒皆様と共に登敬を願っておりましたが、コロナ禍のなか感染拡大防止の為にご理解の程をお願い申し上げます。

また、大遠忌の機運醸成を図るため「不滅法灯 全国行脚」を四月一日から五月三十一日の期間に群馬

暦寺において、規模を縮小して法要を修する予定であります。

一方、三月三日には前橋市のJAビルにおいて、教区内講師を招いて檀信徒研修会を開催する予定です。これとても参加人員を制限しての開催とならざるを得ないことをご了承願います。

どうか、会員の皆様には、コロナに負けない健康な一年を送られますようお願い申し上げます。

群馬教区並びに各種団体においては、昨年四月より例年通りの事業等が中止・延期・縮小となり誠に残念ですが、今後も気を緩めることなく、関係各位と充分協議のうえ適切に対応する所存でございます。

皆様におかれましては、今こそ宗祖大師様のご精神を体して「己を忘れて他を利する」「一隅を照らす」の旗印のもと助け合い支え合い、そして、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行を防ぐため、「新しい生活様式」の実践にてお過ごし頂き、新型コロナウイルス感染症の終息と風雨順時にして、心穏やかな幸多き年であることをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

寺院だより

西群馬部・寶藏寺

鐘楼堂落慶



再建された鐘楼堂

当山は慈覚大師円仁が開基したとされるお寺で大正十三年六月に落雷による火災のため本堂をはじめとする諸堂すべてを焼失してしまいました。

た。平成になり、本堂を再建。そして今回鐘楼堂をお檀家の方々のご尽力により令和元年十二月三日に再建、復興に到りました。

北群馬部・金剛寺

不動堂再建



再建なった不動堂

第五回 浄法寺 伝教大師報恩法要



教区香華料の贈呈

昨年十月二十八日、多野部浄法寺伝教大師尊像前において、宗務所役員と檀信徒会連盟事務局「群馬天台」編集委員の出席により、報恩法要が厳修されました。

例年、群馬教区から多数の檀信徒が参加し行っており、本年は規模を縮小しての法



法要の様子

要となり、法要は、最初に三浦宗務所長から浄法寺住職へ群馬教区香華料が手渡され、次いで宗務所長を導師に迎え、伝教大師へ感謝を言上。出仕者は散華し、尊像の足下にて経文を誦読・行道して大師のお徳を讃え、感謝の念を捧げました。

群馬教区伝道師会連盟 第五回写経研修会



副所長挨拶



写経風景

昨年十一月十九日、群馬教区宗務所において、教区伝道師会連盟主催による写経会が開催されました。

新型コロナウイルス感染症予防のため、参加人数を制限し、隣の人との距離も広く取りながらの写経となりました。眞

木宗務副所長の挨拶、宗務所員による説明を受けてから、観音経を写経しました。

写経は慈覚大師円仁が始められた修行で、平安時代には太政大臣藤原道長・天皇の妻となった藤原彰子も行っています。写したお経は、道長は奈良県吉野の金峯山へ、彰子は比叡山へ埋納されていますが、その後発掘され、いずれも国宝に指定されています。

一宗功労者表彰

住職五十年勤続	最勝寺住職 塚田 亮正
住職三十年勤続	實相寺住職 瀨 敬人
法蓮寺住職	藤田 祐公
飯塚寺住職	飯塚 玄浩
自性寺住職	田中 浩道
安養寺住職	船戸 義澄
善龍寺副住職	米原 祐文
一宗公職歴任	東福寺住職 渡辺 玄晃
本楽寺住職	金井 峻純
布教功労	世音寺住職 小方 文憲
實相寺住職	瀨 敬人

示寂

桐生部 善雄寺 前住職 真下 俊雄 九十八歳 令和二年九月二十六日遷化
世良田部 蓮乗院 前住職 静谷 行純 八十八歳 令和二年十月二十三日遷化
富岡部 金剛院 住職 榎本 晃英 八十歳 令和二年十月三十日遷化

編集後記

昨年の今頃、誰もが新型コロナウイルス感染症が世界中に広がるなんて、想像していなかったでしょう。

伝教大師は弟子たちに「怒みを以て怒みに報せば、怒み止まず、徳を以て怒みに報せば、怒み即ち尽く」と述べられました。

利己的な風潮が目立つ中、平和のありがたさや感謝の気持ちを感じ出して下さい。ましてや差別や偏見などあつてはいけません。

新型コロナウイルス感染症拡大を防止するため、皆様も三密を避けて、新しい生活様式を実行し、安全に過ごして下さい。そして、延期された「東京オリンピック」が開催出来ますようお願いいたします。

令和二年度 「一隅を照らす運動」年次大会 檀信徒研修会 令和三年三月三日(水) 群馬県農協ビル(JAビル)



本堂

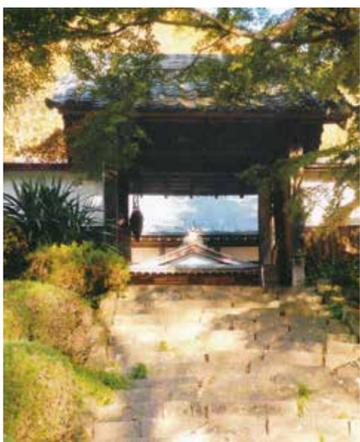


天狗岩

修して... 観音護摩供を奉... して厄除十一面... 正月の初観音と... を再建し、毎年... 音堂、毘沙門堂... すが、現在、観... されたといいま... のお堂が取り壊... ました。その際、... 山の中をいくつ... ため連石山から... 岡製糸場建設の... 明治時代、富... を驚かせます。

富岡部連石山 長壽院 長嚴寺 住職 河原瑩善 甘楽郡甘楽町小幡一九二六

本山は小幡氏、織田氏、松平氏、三氏の城下町小幡の南側に位置し、背後に緑の木々におおわれた岩山の連石山がひかえ、山門の石段を下りた先には雄川が北に向かって流れています。本尊は阿弥陀如来で境内には他に薬師堂、毘沙門堂、観音堂があります。



山門

東ねる正年行事職を命ぜられ、それは明治期に至るまで続いていた。また、織田氏創建になる小幡八幡宮の別当を歴代住職が務めていました。連石山は砂岩の岩山ですが、その岩から修験者たちが彫つたものか三十三体の観音石仏が山中に配され、庫裏の横手に回ると、昔、天狗がやってきて邪魔にならぬようにと重ねていったという伝承の巨大な天狗岩が鎮座して、見るものを驚かせます。



得度授戒の道場「戒壇院」

乗止観院（現在の根本中堂」と名付け自ら刻んだ薬師如来をお祀りし灯明をとしました。「あきらけく、後の仏の御世までも、光つたへよ、法のともしび」この灯りが後世まで受け継がれて周囲を照らし続けていくよう望まれ、現在も「不滅の法灯」として一千二百年以上も絶えることなく人々を照らし続けています。

座主道達和尚と出会い天台教学の書物を書写し、山上の仏陀寺座主行満和尚より天台教学を学び、禅林寺修然禅師より座禅を学び、再び道達和尚より大乘菩薩戒を授かりました。帰国の船が出るまでの間にも当時中国で盛んだった密教の教えを順眺阿闍梨より授かり、一路日本へと帰国しました。帰国後、比叡山へと戻り天台の教えを伝えるべく、『天台法華

宗年分学生式（山家学生式）を朝廷に提出し、つづけて『勸奨天台宗年分学生式』を提出し、大乘戒受戒による僧侶の養成の重要性を主張しました。しかしながら、奈良の仏教者には受け入れられる事なく僧綱（僧侶を監督する機関）から強い反論がありました。最澄はあきらめる事なく『顕戒論』を示し、国と人を守るべき人材、菩薩としての僧侶育成を主張しつづけました。弘仁十三年（八二二年）五月、最澄は弟子たちに遺言を残しました。「怨みを以て怨みに報せば怨み止まず、徳を以て怨みに報せば怨み即ち尽く」「我が為に仏を作る勿かれ、我が為に経を写す勿かれ、我が志を述べよ」「道心の中に衣食有り、衣食の中に道心無し」と生涯をかけて学ばれた一乗仏教への強い意志を示され翌月の六月四日、五十六才にしてご遷化なされた。そして六月十四日には比叡山上にて僧侶になる為の儀式「得度授戒」を認可する太政官符が発給され、日本天台宗が正式に開かれました。その後、天台宗では様々な思想が広がり発展し、鎌倉仏教の多くの祖師たちが比叡山での修行の後、各宗派を開かれました。伝教大師最澄様が生涯をかけて広めた教え、思想を心にもう一度納め、ご遺徳を偲ぶ一年にいたします。

経』を中心とする天台の教えが最善の教えと確信し、中国に渡り天台の教えを学びたいと願ひ続け、延暦二十一年（八〇二年）桓武天皇の意により遣唐使として唐に派遣されることとなり、延暦二十二年（八〇三年）入唐しました。さっそく中国天台宗の総本山、天台山に向かい山麓の修禪寺の修禪寺座主道達和尚と出会い天台教学の書物を書写し、山上の仏陀寺座主行満和尚より天台教学を学び、禅林寺修然禅師より座禅を学び、再び道達和尚より大乘菩薩戒を授かりました。帰国の船が出るまでの間にも当時中国で盛んだった密教の教えを順眺阿闍梨より授かり、一路日本へと帰国しました。帰国後、比叡山へと戻り天台の教えを伝えるべく、『天台法華

謹賀新年

- 天台宗群馬教区宗務所長 長福寺住職 三浦徳俊
天台宗宗議会議員 満勝寺住職 原三浦
天台宗宗議会議員 常圓寺住職 綾小路
天台宗群馬教区顧問 遍照寺住職 長谷川
天台宗群馬教区顧問 西光寺住職 田中晃
天台宗群馬教区顧問 光巖寺住職 小川晃
天台宗群馬教区顧問 妙見寺住職 小川晃
天台宗群馬教区宗務副所長 龍藏寺住職 眞木興
天台宗群馬教区宗務主任 三光院住職 安田孝
天台宗群馬教区宗務主任 遍照寺住職 榎本最
天台宗群馬教区宗務主任 正法院住職 藤井善
天台宗群馬教区宗務主任 聖徳寺住職 小蘭実
天台宗群馬教区宗務主任 龍性寺住職 小葉昌
天台宗群馬教区宗務主任 薬王寺住職 千葉照
天台宗群馬教区宗務主任 恩行寺住職 竹村興
天台宗群馬教区宗務主任 萬福寺住職 小出貴
天台宗群馬教区宗務主任 光琳寺住職 林祐
天台宗群馬教区宗務主任 浄土院住職 宮興
天台宗群馬教区宗務主任 妙音寺住職 稲岡法
天台宗群馬教区宗務主任 源正寺住職 額綱亮
天台宗群馬教区宗務主任 眞光寺副住職 都筑晃
天台宗群馬教区宗務主任 龍泉寺住職 小都玄
天台宗群馬教区宗務主任 正圓寺住職 鈴木宗
天台宗群馬教区宗務主任 寶禪寺住職 高橋正
天台宗群馬教区宗務主任 正觀寺住職 觀橋賢
天台宗群馬教区宗務主任 永徳寺住職 小月真
天台宗群馬教区宗務主任 吉祥寺住職 加藤静
天台宗群馬教区宗務主任 福泉寺住職 橋本一
天台宗群馬教区宗務主任 隨應寺住職 桑原弘
天台宗群馬教区宗務主任 慈照院住職 藤村祐
天台宗群馬教区宗務主任 法蓮寺住職 藤田公
天台宗群馬教区宗務主任 明聞寺住職 青柳興
天台宗群馬教区宗務主任 林倉寺住職 西林乘
天台宗群馬教区宗務主任 法森寺住職 三浦寛
天台宗群馬教区宗務主任 金光寺住職 平泉人
天台宗群馬教区宗務主任 延命寺住職 寺慶厚
天台宗群馬教区宗務主任 實相院住職 大岡玄
天台宗群馬教区宗務主任 榮昌寺住職 内田尚
天台宗群馬教区宗務主任 華藏寺住職 藤井淳
天台宗群馬教区宗務主任 長樂寺住職 高橋祐
天台宗群馬教区宗務主任 昌福寺住職 市川亮
天台宗群馬教区宗務主任 蓮華寺住職 紺野周
天台宗群馬教区宗務主任 龍善寺住職 龍倉政
天台宗群馬教区宗務主任 常光寺住職 堀越教
天台宗群馬教区宗務主任 西光寺住職 谷晃
天台宗群馬教区宗務主任 光明院内裏 今村尚
天台宗群馬教区宗務主任 觀月院住職 竹田暢
天台宗群馬教区宗務主任 禪養寺住職 小出祥
天台宗群馬教区宗務主任 吉岡会理事長 河合祖
天台宗群馬教区宗務主任 大福寺住職 轟合堯
天台宗群馬教区宗務主任 天王院住職 小林静
天台宗群馬教区宗務主任 長松寺住職 長林順
天台宗群馬教区宗務主任 薬王寺住職 千葉宗
天台宗群馬教区宗務主任 隋應寺住職 神宮直
天台宗群馬教区宗務主任 妙見寺住職 後閑賢
天台宗群馬教区宗務主任 天龍護国寺住職 塚越芳
天台宗群馬教区宗務主任 華藏寺住職 川端護
天台宗群馬教区宗務主任 光琳寺住職 宇津木克
天台宗群馬教区宗務主任 清泉寺住職 鈴木彦
天台宗群馬教区宗務主任 龍藏寺住職 嶋眞
天台宗群馬教区宗務主任 眞光寺住職 眞田誠
天台宗群馬教区宗務主任 天王院住職 今泉治
天台宗群馬教区宗務主任 善光寺住職 持昭
天台宗群馬教区宗務主任 珊瑚寺住職 榊田良
天台宗群馬教区宗務主任 眞光寺住職 松村伸
天台宗群馬教区宗務主任 眞光寺住職 旭